

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2、3面 民衆党躍進となった台湾選挙
- 4、5面 インドネシア訪問
- 6面 バンドンにて (2)
- 7面 列島 AALA
- 8面 わたしと AALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2024年3月1日 No.764

平和で公正な世界秩序をめざす 第19回非同盟首脳会議が カンパラ宣言を採択



日本 AALA 代表 2 人が オブザーバー参加

第 19 回非同盟諸国首脳会議が 1 月 15 日から 20 日まで、アフリカ中部のウガンダ共和国の首都カンパラで開かれました。首脳会議のテーマは「世界全体の豊かさの共有に向けた協力の深化」で、121 の加盟国に加えオブザーバー国やゲスト国の政府首脳や高官および国際機関や解放運動組織の代表が参加しました。会議は成果文書の「カンパラ宣言」を採択し、非同盟運動の影響力を強化し、核兵器のない平和で公正な世界秩序の構築をめざして団結して努力していく決意を表明しました。

「カンパラ」宣言は、アメリカと中国、ロシアの対立を念頭に「地政学的緊張の高まり」で、戦争や植民地主義的な支配、環境破壊が広がり、多くの国の「平和と経済発展、人権と社会進歩」が阻まれていると指摘。これを克服する非同盟運動の役割が重要になっていると強調しました。イスラエルによるガザ地区への無差別攻撃を強く非難し、軍事行動の即時停止と人道休戦の実施、占領地からの撤退を要求しました。イスラエル軍の行動をジェノサイド条約違反として国際司法裁判所に提訴した南アの行動を支持すると表明しました。

「宣言」は、多国間主義の堅持と国連憲章、国際法の順守を強調しつつ、大国中心に運営されている国連を民主的に改革することの重要性を強調。安保理へのアフリカ代表の参加をはじめ、国際機関の抜本的な改革をめざし、今年秋の国連総会で予定され



箱木五郎事務局長 (左)、鈴木啓史静岡 AALA 理事 (右)

ている「国連未来サミット」にむけて、非同盟諸国の団結を強めていくと強調しています。議長国のウガンダがことし 140 カ国以上が参加する「G77 中国」の議長国にもなることを踏まえ、2つの運動の連携で世界秩序の民主的な改革にとりくむとしています。また引き続き「核兵器の廃絶」にむけた努力をする表明しました。

首脳会議には、オブザーバー資格を持つアジア・アフリカ人民連帯機構 (AAPSO) 代表団の一員として日本 AALA から箱木五郎事務局長と鈴木啓史 (静岡 AALA 理事) の 2 人が参加しました。2人は各国、各組織の代表と交流。非同盟運動側に対し、日本や NATO 諸国など軍事同盟の下にあって非同盟をめざして活動への理解と協力をよびかけるメッセージを配布しました。

民進党の1勝1敗

民衆党躍進となった 台湾選挙について

慶応大学名誉教授 大西 広

はじめに

世界から注目を浴びていた台湾の選挙戦は総統選での与党民進党の勝利、総選挙での大敗という結果となった。日本では総統選での民進党頼清徳の勝利のみに注目が集まっているが、同時に行われた総選挙で議席の過半数を目指した民進党が国民党に議席を逆転されたこと（前回も議席を減らしたが今回さらに10議席を失った）ことで、民進党が開票時に開いた大集会でも頼清徳次期総統は浮かない顔のままであった。総統選で取った560万票も前回の820万票を大きく下回っている。これは前回総統選で野党国民党がとった得票とほぼ同じである。そして、そのため、もし「野党統一」がなされていたらほぼ間違いなく「政権交代」となった。そういう台湾の世論状況であるというのが重要である（表参照）。この結果、焦点の「対中関係」も現状のまま続くものと思われる。選ばれた頼清徳自身はこれまでの蔡英文より対中強硬派と言われるが、投票結果を反映せざるを得ないというのが私の予測である。

第3党に流れた 2大政党への批判票

しかし、今回、「野党統一」はなされなかった。元総統の馬英九の努力にもかかわらず統一ができなかったのは何故かとの疑問への回答は何種類かありうるが、やは

り評判の悪い民進党と闘う国民党へも住民は根強い不信を持っているというのが多くの観測である。国民党は日本の自民党に似た名士と地域ボスによって成り立つ政党で、「名士」が企業家として大陸との友好な関係を望むのは良いこととしても、「国内」政策には問題も多く、特に若者たちは支持できない。これは民進党に対しても同じで、前回、蔡英文に投票した若者たちの多くもその（「国内」）政策に失望して今回は第3党「民衆党」の柯文哲に投票している。昨年12月時点では17～8%程度の支持率しかなかった柯文哲が開けてみれば26%を得票したのには、そうした背景があったことを見逃してはならない。

なお、この結果、「比例区（「不分区」と表現される）」も民衆党は300万票をとり議席を8に増やした結果、立法院（「国会」）の議決で完全にキャスティング・ボートを探れることとなった。民進党、国民党が対立するすべての議案について、結局決定権を持つこととなったのである。

ただし、 未知数の多い民衆党

この民衆党は人材を各方面からかき集めた新興政党であって、非常に危なっかしい側面も持つ。民進党よりも極端な「台独派」が混じっている一方で、大陸との関係については、台湾アイデンティティーを打ち出しつつ中国との交

流も図るとしている。また、あるルポでは柯文哲の発言が右に左にぶれが大きいとされているから、この先、どのような態度を立法院で取るのかが注目される。簡単ではない。

ただ、それでも言えるのは、彼らを押し上げた若者たちの要求を今後反映せざるを得ないだろうということと、上記のように「対中関係」での変化がないように思われる状況下で、「国内政策」が浮上するのではないかということである。党首柯文哲もそれを予想して、自党の目的を「民主・自由・多様性・開放・法治・人権・弱者保護」といった「国内政策」に絞り込んでいる。台湾も今や他の「先進諸国」と同じく、地価の上昇や若者の貧困などの社会矛盾が吹き荒れつつある。このあたりの課題にじっくり取り組んでくれることを期待したい。

その他、気づいたこと

今回、この2つの選挙をウォッチすべく短期間ではあれ訪台をし、そこで気づいたことをこの小文の最後に述べておきたい。そのひとつは写真にあるようなイスラエルの国旗が民進党の「勝利集会」でたなびいていたことである。それと同時にたなびいていたウクライナの旗にはそう驚かないが、パレスチナでのイスラエルのやり方には世界の殆どの諸国が非難をしている。その下で、「民進党はイスラエルの側だ」と主張するメン



投票日前日の民進党の全国集会



投開票日夜の民進党「勝利集会」にて

台湾の2つの選挙の結果

	総統選挙		立法院選挙（総選挙）	
	候補者	得票数（率）	議席数	比例得票数（率）
台湾民進党	頼清徳	559万（40%）	51 議席	476万（35%）
中国国民党	侯友宜	467万（33%）	52 議席	498万（36%）
台湾民衆党	柯文哲	369万（26%）	8 議席	304万（22%）

バーがいることへの驚きである。それからもうひとつ、立法院（「国会」）選挙の選挙区には「原住民区」というのがあって、「平原原住民」と「山地原住民」のそれぞれが3つずつの議席を持っていることを知って驚いた。この制度は1972年から導入されているもので、現在の有権者数はそれぞれ

約20万人程度。①日本統治時代の本籍地が山地／平地行政区にあること、かつ②戸籍に本人または直系尊属は原住民であることが明記されていることを条件として有権者になれるということであるが、日本のアイヌ民族にもこの方式が採用されないものかどうか、と考へた。中国の各級人民代表大

会ではもちろん少数民族枠もあり、しっかり全民族から代表が出ているが、日本の国会にはアイヌ民族から誰も出ていないからである（ただし、過去には1例の例外があった）。少数民族問題を研究する者として考へた次第である。

石垣島・与那国島・宮古島 3島をめぐる平和交流の旅 4日間

- ・南西諸島を訪れ、自衛隊配備問題を考へます。
- ・それぞれの島に暮らす方々と交流し、暮らしに及ぼす影響について直接お話をうかがいます。
- ・島ならではの風景・郷土料理・民謡もお楽しみください。

- 日程 ①5月12日（日）～5月15日（水） 申し込み締め切り：4月12日（金）
②9月29日（日）～10月2日（水） 申し込み締め切り：8月30日（金）
- 旅行代金 175,000円（羽田発） 羽田以外の発着・現地参加の方はお問い合わせください。
- 申込先・問い合わせ （株）富士国際旅行社
TEL 045-212-2101（月～金 10:00～18:00）

日本 AALA のインドネシア訪問

「戦争するな!どの国も」署名1万余筆を提出 「憲法9条守ろう」の声が届いた

ジャーナリスト 鈴木 勝比古

日本 AALA のインドネシア訪問団(団長、吉田万三代表理事ら 29 人)が昨年末(23 年 11 月 26 日～12 月 2 日)にインドネシアを訪問し、11 月 29 日午前、首都ジャカルタの ASEAN 本部で「戦争するな!どの国も」署名 1 万 1316 筆を提出し、リー・ユン・ユン ASEAN 広報部長ら ASEAN スタッフと約 2 時間にわたり交流しました。インドネシアは世界第 4 位の人口(人口 2 億 7870 万人)を擁し、面積は日本の約 5 倍です。2023 年は輪番の ASEAN 議長国でした。昨年は雨期の到来が遅れ、私たちの訪問と雨期の到来が重なり、訪問した各地で激しいスコールに見舞われました。

16 階建ての新 ASEAN 本部で あたたかい歓迎

ASEAN 本部は 16 階建てのビル 2 棟の高層ビルを増築、2019 年 8 月に完成したばかりです。建設費用はインドネシア政府が負担しました。29 人は本部 8 階の広い会議場でリー広報部長らスタッフにあたたかく迎えられました。

冒頭、吉田団長があいさつをおこないました。吉田団長は「68 年前にバンドン会議の精神を受け継いで創設された日本 AALA は、アジア・アフリカの民族解放運動と連帯してきました」「今日では核兵器も外国軍事基地もない、平和で公正な世界をめざして運動しています」と自己紹介し、ASEAN は、「内政不干渉と紛争の話し合い解決の原則をもと

に、紛争を大きな戦争に発展させない努力を重ねています」「ASEAN インド太平洋構想(AOIP)の推進や南シナ海問題、ミャンマー問題などの平和解決に取り組んでいます」と ASEAN の努力を評価し、「東アジアの平和の共同体建設の努力を発展させてほしい」と期待を表明しました。吉田団長のあいさつをパラグラフごとに副団長の河内研一さんが英語の翻訳文を読み上げると、笑みを浮かべながら何度もうなずいたリー広報部長は、「吉田団長の発言のとおり」と繰り返し、吉田団長が ASEAN の役割を正しく評価したことに感謝し、「ASEAN は長期にわたりこの地域で大きな戦争を起こさなできました」「紛争を戦争にせず、対話を通じて相互の理解を深めてきました」と指摘し、「吉田団長のあいさつを ASEAN 事務総長に報告する」と述べました。

日本と世界の緊迫する情勢で 熱心な意見交換

あいさつのあと、AALA 訪問団全員とリー広報部長ら ASEAN 側は約 1 時間半にわたり真剣かつ友好的に意見交換しました。日本 AALA 訪問団の一人一人が日本内外の情勢および活動体験をふまえて意見と質問を出し、リー広報部長が答えるかたちで対話が進行しました。沖縄からの参加者は、第 2 次世界大戦では沖縄県民の 4 人に 1 人が亡くなる大きな犠牲があり、悲惨な戦争は 2 度と起こしたくないのに、

沖縄の広大な土地を米軍基地が占拠し、戦争の危険を強めていると指摘しました。イスラエル軍によるガザへの残忍な殺戮攻撃やミャンマー問題も質問が出ました。日本軍によるインドネシアでの慰安婦強制の問題を一般のたちはどう考えているか、アジア太平洋地域での米日などによる中国封じ込め態勢強化や台湾有事の想定など、日本政府が進める戦争準備の問題への質問も出ました。東日本大震災の下で、生活が困難になったインドネシアを含む東南アジアからの留学生の生活を支援するフードパントリーに取り組んだことを紹介しつつ、ASEAN 諸国の若い人を含む一般の人々が ASEAN をどのように考えているか、最後の質問として日本の憲法 9 条をどう考えるかという質問も出ました。

リー広報部長は、ASEAN にとっては米国も日本も対話・協力国であり、中国も同じく対話・協力国であるとして包摂的な態度で対話を進め、ASEAN インド太平洋構想(AOIP)の具体化をすすめていると述べました。イスラエルによるパレスチナの攻撃の激化については(昨年)10月20日にリヤド(サウジアラビア)で初の ASEAN・GCC(湾岸協力会議)首脳会議を開催し、恒久的停戦を求める共同声明を発表したことを紹介しました。ミャンマー問題については「複雑だが、クーデター直後の ASEAN 首脳会議でのミャンマーの代表を含むコンセンサス(全会一致)の 5 項目の合意に基づくすべてのミャンマー

の当事者による解決に向けて努力している」と語りました。

率直で なごやかな雰囲気

リー広報部長は「ASEANの総人口は6億8000万人でインドや中国の半分ほどにもなり、すべての人々がASEANの諸活動に関心を持ち、理解するのはむづかしい。ASEAN加盟国の首都の人々にまずASEANの組織や方針を知ってもらうことにつとめている」と述べました。そして「ASEAN域外の人々にもASEANを理解してもらうように努力している。みなさんとこうしてお話ししているのもそうした努力の1つです」と述べると、いっせいに拍手が起きました。

憲法9条についての質問には、リー広報部長は個人的な発言とことわりながら、「日本の侵略を受けた国にとっては、憲法9条はその国の安全保障につながります。世界中の平和を愛し、武力の行使に反対する人は誰でも憲法9条に賛成します」と述べると、会場から再びいっせいに拍手が起きました。

慰安婦問題ではリー部長は「私はシンガポール出身であり個人的な意見はあるが、若い人に話してもらいましょう」と述べ、会場にいた若いASEAN事務局スタッフに代わって発言するよう促し、彼女がマイクを取って発言する場面もあり、なごやかな雰囲気になりました。彼女は「過去のことは教科書で学んでいるが、現在の日本については肯定的に考えている」と答えました。

東南アジア地域の政府間組織であるASEANと、対話・協力国の日本の市民団体との交流はこれまであまりおこなわれていません。この点で今回のASEANと日本AALAのインドネシア訪問団29人の交流は、日本の市民団体とASEANの新たな交流のページを開く画期的な意義があったと思います。懇談がおこなわれた会議場の一角にはコーヒー・コーナーが設けられ、懇談のあと



日本国憲法9条をどう考えるか質問する
小林立雄さん（宮城AALA）

は、くつろぎの談笑のひとつとなりました。ASEAN事務局側は、日本AALA訪問団のASEAN本部訪問と交流の様子を撮影し、作成した写真集を懇談の終了直後からインターネットのサイト上にアップしました。

懇談の後、リー広報部長が本部内を案内し、玄関で記念撮影しました。ASEAN本部訪問は午前中に終わりましたが、吉田団長が地元から託された「憲法9条プレート」を贈呈したいと申し出たところ、リー部長が午後の執務のあいまに吉田団長らのグループを再度ASEAN本部に迎えて、9条プレートの贈呈と記念撮影をおこないました。

途上国同士の技術協力に 日本も協力を！

日本AALA訪問団はこの日の午後にはジャカルタの非同盟運動(NAM)「南・南技術協力センター」を訪問し、発展途上国間の経済協力プロジェクトに携わるディアル・ヌルビントロ所長ら6人のスタッフと意見交換しました。

非同盟運動は東西冷戦の時期に発足した、東西の2大軍事ブロックに属さず、非同盟を主張した国々の運動であり、現在も約120カ国が加盟する、国連加盟国の約3分の2を擁する巨大な運動体です。今年1月19、20の両日、ウガンダのカンパラで第19回非同盟首脳会議を開催しました。今日、「グローバル・サ

ウス」と呼ばれる国々の多くは非同盟運動の参加国です。非同盟運動参加国の大半は発展途上国であり、こうした国々同士の経済協力が「南・南協力」です。インドネシア政府が財政支援する「非同盟南・南技術協力センター」はジャカルタにある常設機関として活動しています。

同センターの会議室で、ヌルビントロ所長がパワーポイントで作成した映像を映しながら同センターの活動を紹介しました。訪問団から具体的なプロジェクトの内容や成果について質問が出されると各スタッフは、現在、進行中のプロジェクトを紹介しましたが、予算や技術が不足し、困難を抱えている現状も率直に認めました。

日本側からは「南・南技術協力」に日本のJICA（国際協力機構）などの資金と技術を活用して協力する可能性を検討してみるとの意見も出され、センター側から日本からの協力への熱い期待が表明されました。ウクライナ戦争をめぐる世界が敵対するブロックに分かれ、互いに敵対する軍事同盟を強化しつつある今日、どちらの軍事ブロックにも加わらない非同盟運動があらためて重要性を増しています。同時に、第2次大戦後に日本が平和憲法の下で「戦争しない技術先進国」として東南アジアや世界各地で経済・技術協力したことを想起し、「地球環境にも、発展途上国の人々にもやさしい」新たな技術協力をすすめることが必要であるとの思いを強くしました。

バンドンにて②

歴史的会議参加者が宿泊したホテル
グランド・ホマン

訪問団副団長 常任理事 埼玉 AALA 代表委員 河内 研一

宿泊者名簿のトップに周恩来の署名

アジア・アフリカ会議に参加した各国首脳たちが宿泊したのが現在のサヴォイ・ホマン・ホテル（会議場となった独立会館までは100mほど）で、当時はグランド・ホマン・ホテルの名で、開業は1888年である。最新設備を備えた高層ホテルが主流となる今、格式ある4階建ての老舗ホテルといえる。ただイスタンブールのペラパレス・ホテルのように、アガサ・クリスティエーの部屋、ケマル・アタチュルクの部屋といった具合に著名宿泊者名を売りにする（私が泊ったのはトロツキーの部屋だった）ことはなく、ここにはネルーの部屋もナセルの部屋も存在しない。だが全185室には各国首脳や随員たちが宿泊した。たとい設備が古くなってはいても、今回の旅で参加者には是非当時の気分浸ってほしいとの強い思いから富士国際旅行社にはホテルを取り直してもらっていた。

フロントから客室に向かうロビーの隅のグランドピアノの上にはチャップリンの写真が飾っている。彼も泊まったことがあったのだ。さらに進むとサヴォイ・ホテルの「黄金の書籍」と記されたガラスケースが置かれている。展示されているのは宿泊者の記帳である。上部にはアジア・アフリカ会議1955年4月18日から24日と印字され、1ページは縦3列に区切られて左列の最上段には達筆な漢字で周恩来（彼が実際には宿泊しなかったことについてはのちに詳述する）とある。インクが消えかかっている署名も多々あって判読しにくいのが、その一つ空けた下にはシアヌークがある。ネルーは

Savoy Homann had witness historical moment for world history on April 24th, 1955, when the first Asian African Conference held in Bandung



右列下から2番目にやや大きな署名をデーヴァナーガリー文字ではなくアルファベットで綴っている。50周年記念会議の宿泊名簿もあり、そこには大きめの漢字で小泉純一郎もある。1階の客室に

通じる通路には会議関連の写真がまとめて展示されている。これらの写真のパフレットくらい、説明をつけて置いてないのかホテルに尋ねるもないとの返事。なんとももったいない話である。

ホテルの展示写真。スカルノ大統領（左）ネルー首相（中）ハッタ副大統領（右）

能登半島地震・外国人被災者募金

日本 AALA は、今回の支援活動は日本ベトナム友好協会に協力して、東南アジア出身の被災者（主にベトナム人）への援助に集中することとします。支援はかなり長期間になることが予想されますので、継続的に募金の呼びかけをしますのでよろしくお願ひします。

能登半島地震で被災されている、日本在住の東アジア、東南アジア各国の方々の方々の状況についてお知らせいたします。能登半島中・北部には1203名の方々居住され、依然深刻な被災の状況にあります。日本ベトナム友好協会は1月4日に「能登半島地震支援チーム」を立ち上げ、支援募金を開始。被災者への見舞金送金、アジア食材の提供、そして技能実習生に関しては、被災した会社再開のめどが立たないため受け入れ協同組合と協力して、転籍先確保を進めています。

（日本ベトナム友好協会より）

能登半島地震支援募金 受付口座

- 郵便振替口座 00110-6-72434 日本 AALA 連帯委員会
- ゆうちょ銀行 当座 0一九店 72434 「0」は数字
日本 AALA 連帯委員会

「能登半島地震支援」と記載してください



群馬

会員拡大5名 読者拡大5名

昨年、日本 AALA が東南アジア諸国連合 (ASEAN) 議長国のインドネシアを訪問したのに続いて、日本共産党幹部も ASEAN の3カ国を訪問しました。大歓迎です。

機関紙新年号の羽場久美子さん (国際政治学者) と宮城恭子さん (日本 AALA 代表理事) の新春対談をくり返し読みました。とくに「中国やインドはやはり数千年の長い歴史があるだけ、深い思想や哲学あるように思います」と述べています。大変、勉強になりありがたいと思います。

事務局長の声がかかり6年になります。同時に会計係を引き受けました。私のひと月のサイクルは、「群馬 AALA 通信」の印刷と機関紙への折り込み、発送業務が終わると一息つけます。

理事会は、年間約10回開催され出席率は7割台です。会議の議長は、代表理事が交替で行います。事務局長の報告は、最初に「しんぶん赤旗」の国際面を中心に日付ごとに国際情勢等をできるだけ正確に15～20分くらい報告します。次に組織動態があれば報告します。

会計報告は毎月行います。会費納入口数や募金納入の人数が分かるようにしています。3番目に行事の計画等を討議します。4番目に、関係する他団体の行事日程などを知らせます。最後に次回の会議開催日を決めて終わりになります。

群馬 AALA の特徴は、とにかく理事会を開催すること、講演会やDVDの上映会の開催と必ず年1回の「ツアー」を年間行事で行うこと、定期総会を開催することです。会費の本部納入を最優先課題としてとりこんでいます。

昨年は、1月に総会を開催し、総会の第2部で坂田雅子監督のDVD「失われた時の中で」を上映しました。6月には映画「ひまわり」のDVD上映会を開催しました。上映会は、いつも無料でおこなっています。11月は「国境の島・対馬」の旅を行いました。それぞれの行事の参加者は、22～23人くらいです。参加名簿にもとづいて、会員 (読者) でない参加者に宣伝紙を郵送しています。会員5名と読者会員が5名増になりました。今回は「上映会」でも「旅」の企画でも仲間が

増えました。電話での会員拡大は不得意ですけど、事務局長の仕事と割り切って取り組んでいます。



今年1月になってこの間、連絡が取れなかった方が会員になってくれました。1年が過ぎると残念ながら、必ず退会者が出ます。会員の方も高齢化がすすみます。会員拡大を働きかけなければ、必ず会員数は後退します。微力ながらプレイをくり返し、宣伝紙を発送して、会員拡大をめざします。

(事務局長 砂長三郎)

東京

精力的に各地域で 学習・講演会などを実施

昨年秋以来、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地域への軍事攻撃、ASEANの平和外交、グローバルサウスの問題などをテーマに学習講演会や地域の「平和のために戦争展」への展示参加などを精力的に行ってきました。支部での取り組みの一部を紹介します。

1月13日、武蔵野・三鷹支部は、日本 AALA 代表理事の田中靖宏さんを講師に「世界を動かすグローバルサウスと非同盟運動」をテーマに学習会を持ちました。田中さんの50枚におよぶパワーポイントを見ながら、最新の情報を織り込んでのお話に参加者はメモを取り、熱心に聴き入りました。

導入として、朝日新聞社説 (1月6日)「国際世論を形成し、紛争解決や秩序回復に活かす方策を模索するためには新興・途上国の存在が欠かせない。日本などの主要国はこれらの国々との信頼関係を築いていくべき」が紹介されま



した。

講演は多岐にわたり、イスラエルのガザ集団殺戮・民族浄化を支援、人道停戦にも反対し、妨害しているアメリカとそれに追随している日本の態度。日本 AALA のイスラエル、アメリカ、日本政府への抗議声明を紹介。南ア政府が国際司法裁判所に「ジェノサイド」を告発、国連総会がガザ「人道休戦」決議を採択した時121カ国 (グローバルサウス、非同盟諸国の賛成) に対し反対は14カ国 (アメリカ、イスラエルなど)、棄権44カ国 (日本も) で、アメリカとイスラエルが孤立したこと。ウクライナ戦争でも、西側諸国、アメリカの反対で和平が実現されなかった事例に対して AALA 諸国は非同盟・中立の立場で、即時停戦と外交努力を求めたことなどが紹介

されました。さらにグローバルサウスとはどんな国かとさまざまな角度から分析。ほとんどが欧米の植民地だったこと、アジア・アフリカ会議＝バンドン会議（1955年）以後の歩みと成立した地域共同体は非同盟、非核地帯を広げていることなども紹介されました。さらに、今後25年、50年後の世界のGDPランキングの上位はグローバルサウス諸国が占めると予測する資料も示されました。

参加者からは①グローバルサウスの実相がよく分かった。AALAが本道だと知った②弱小といわれていた国々が立ち上がっていることを応援したい。などの感想や多くの質問が出されまし

た。参加者一同、異口同音に「大変勉強になった。もっと時間がほ

しかった」と好評でした。（事務局長 松井幸博）

オンライン講演会

台湾選挙と今後の兩岸関係

講師：大西 広（慶応大学名誉教授）

*日時 3月2日（土）14:00～16:00

*参加費 日本AALA会員、JCJ会員は無料

参加希望の方は、メールで日本AALAに申し込んでください

1月の台湾総統選挙の結果と今後の（台中）兩岸関係をどう見るか。中国、台湾を頻りに訪問して取材、学術交流されている大西先生にアジアで戦争をおこさないためにどうすればよいか、日本は台湾にどう向き合えばよいかを含めてお話しいただけます。

わたしと

163



AALA

北海道AALA
鈴木 幸恵

出会いは道勤医協

私がAALAの活動に参加したのは、札幌で働いていた20代の頃です。旭川に来て30年余りは年末物販の協力しかできていませんが、連帯運動の端っこに参加させていただいています。毎月届く機関紙はとても楽しみで、特に外交問題は学習に役立っています。

1986年、私は北海道勤医協に就職し医療活動部で働きはじめました。そこは自治体検診や被爆者検診を担当しており、書類を副院長に届けるのが私の仕事でした。当時の副院長、鈴木頌先生（現北

海道AALA副理事長）は、84年7月にニカラグアを訪問し、『自由か、死か—ニカラグア』を86年4月に出版したばかりでした。同じ部署の先輩に誘われ、副院長室でニカラグアの話の聞いたり、中南米の映画を見たりしたのがAALAとの出会いでした。専従の影山さんや菊地さんにも仲よくしていただき、キューバ料理をつくったり年末に事務所の留守番をしたり、わいわい集まるのが楽しみでした。

当時は自主上映会なども盛んで、文化活動に参加するたびにさまざまな出会いが増えました。チリ、アルゼンチンなどの抵抗運動やアパルトヘイトに関する映画や舞台にも触れることができました。今思い出してもかなり辛い内容ではありましたが、その後の人権意識を左右するほど強い衝撃を受けました。

私は駆け出しの医療ソーシャルワーカーで、ソーシャルワーカー



は「職業」という認識でした。しかし、南アフリカをはじめ多くの国々では命がけの活動をしている人もいると知り、背筋が伸びる思いがしました。同時に、文化・芸術活動は社会を描いて人々を勇気づけることができるのだ、と感動したのでした。

現在は、生活困窮者の相談支援活動をする傍ら、親の介護や地域の諸活動で右往左往する日々。今後も機関紙と年末のチキンで繋がれたらと思います。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館6階

電話：03 (6453) 7297 HomePage <https://www.japan-aala.org/>

FAX：03 (6453) 7298 E-mail: info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円（送料別63円）

